

令和7年度中学校教育課程研究集会資料

美術部会

徳島県立総合教育センター
教職員研修課 森 裕二郎

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について
～学習の過程を大切にした授業づくり～
- 指導計画の作成と改善について

指導計画の作成と内容の取扱いについて

指導計画作成上の配慮事項

- Ⅰ 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の**主体的・対話的で深い学び**の実現を図るようにすること。その際、**造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連**させた学習の充実を図ること。

I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

○ I 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。

→ 題材のまとまりの中で授業改善を進める。

- ・ 主体的に学習に取り組めるように見通しを立てたり、振り返ったりする。

→ 自身の変容を自覚できる場面をどこに設定するか。

- ・ 対話によって自分の考えなどを広めたり深めたりする。

→ 言語活動をどこに設定するか。

- ・ 学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面、教師が教える場面をどのように組み立てるか。

指導計画の作成と内容の取扱いについて

言語活動の充実

(2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして対象の見方や感じ方を深めるなどの言語活動の充実を図ること。

2 育成すべき資質・能力を明確にする

美術科の 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、**造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

知識及び 技能

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

思考力、 判断力、 表現力等

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

学びに向 かう力・ 人間性等

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 育成すべき資質・能力を明確にする

A表現 (1)発想や構想に関する資質・能力

ア 感じ取った
ことや考えた
ことなどを基
にした発想や
構想

(ア) 感じ取ったことや考えたことなどを
基にした発想や構想

主題を
生み出す

(ア) 構成や装飾を考えた発想や構想

主題を
生み出す

イ 目的や機能
などを考えた
発想や構想

(イ) 伝達を考えた発想や構想

主題を
生み出す

(ウ) 用途や機能などを考えた発想や構想

主題を
生み出す

2 育成すべき資質・能力を明確にする

主題を生み出す

生徒自らが

- ・ 感じ取ったことや考えたこと、
- ・ 目的や条件など

を基に

「自分は何を表したいのか、何をつくりたいのか、
どういう思いで表現しようとしているのか」など、
強く表したいことを心の中に思い描くこと

2 育成すべき資質・能力を明確にする

A表現 (1)発想や構想に関する資質・能力

第1学年

ア 感じ取った
ことや考えた
ことなどを基
にした発想や
構想

(ア) 感じ取ったことや考えたことなどを
基にした発想や構想

主題を
生み出す

- 感じ取ったことや考えたことなどを基に、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くこと。
- 対象や事象を見つめ感じ取ったことや想像したことなどを基に、**内発的に主題が見いだせるようにすることが大切。**

2 育成すべき資質・能力を明確にする

A表現 (1)発想や構想に関する資質・能力

第1学年

イ 目的や機能
などを考えた
発想や構想

(ア) 構成や装飾を考えた発想や構想

主題を
生み出す

○構成や装飾に対して生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くこと。

○自分を含めた身近な相手を対象として主題が生み出せるようにすることが大切。

2 育成すべき資質・能力を明確にする

A表現 (1)発想や構想に関する資質・能力

第1学年

イ 目的や機能
などを考えた
発想や構想

(イ) 伝達を考えた発想や構想

主題を
生み出す

○伝えたい内容や相手に対して生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くこと。

○生徒が自分で表したい内容を思いのままに自由に主題を生み出すのではなく、伝える目的や条件を基に、伝える相手の立場や気持ちを尊重することや、伝える内容についても、生徒自身の日常の生活体験の中から見付けさせ、主題を生み出せるようにすることが大切。

2 育成すべき資質・能力を明確にする

A表現 (1)発想や構想に関する資質・能力

第1学年

イ 目的や機能
などを考えた
発想や構想

(ウ) 用途や機能などを考えた発想や構想

主題を
生み出す

- 使う人の気持ちや材料などから生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くこと。
- 他者の理解や、相手を思いやる気持ちなど、使用する者の気持ちになって形や色彩、材料などで表現することや、材料が用途や機能に適しているかということ、材料の性質や特徴を様々な角度から考えて主題を生み出せるようにすることが大切。

2 育成すべき資質・能力を明確にする

A表現 (1)発想や構想に関する資質・能力

第2学年
及び
第3学年

イ 目的や機能
などを考えた
発想や構想

(イ) 伝達を考えた発想や構想

主題を
生み出す

○伝えたい内容や相手に対して生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くこと。

○より多くの人々を対象にしていることから、第1学年で学んだことを基に、伝える対象を自分の身近な存在に求めるだけでなく、第2学年及び第3学年の社会的視野の広がりに合わせて、社会一般の不特定の人々などを伝える対象として想定し、社会との関わりを考えながら主題を生み出せるようにすることが求められる。

2 育成すべき資質・能力を明確にする

A表現 (2)技能に関する資質・能力

ア 発想や
構想した
ことなど
を基に表
す技能

(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す技能

(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表す技能

2 育成すべき資質・能力を明確にする

B鑑賞 (1)鑑賞に関する資質・能力

ア 美術作品 などに関する 鑑賞

(ア) 感じ取ったことや考えたことなどを基にした
表現に関する鑑賞

(イ) 目的や機能などを考えた表現に関する鑑賞

イ 美術の働 きや美術文 化に関する 鑑賞

(ア) 生活や社会を美しく豊かにする美術の働きに
関する鑑賞

(イ) 美術文化に関する鑑賞

3 「共通事項」の視点で授業を考える

「共通事項」の内容

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

学習指導要領解説 P45

3 「共通事項」の視点で授業を考える

「共通事項」のアの指導

ア 「共通事項」のアの指導に当たっては、**造形の要素****など**に着目して、次の事項を**実感的に**理解できるようにすること。

(ア) 色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること。

(イ) 材料の性質や質感を捉えること。

(ウ) 形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること。

(エ) 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。

(オ) 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉えること。

3 「共通事項」の視点で授業を考える

「共通事項」のイの指導

- イ 「共通事項」のイの指導に当たっては、**全体のイメージや作風など**に着目して、次の事項を**実感的に**理解できるようにすること。
- (ア) 造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。
- (イ) 造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること。

3 「共通事項」の視点で授業を考える

中学校美術科における造形的な視点 造形を豊かに捉える多様な視点



対象などの形や色彩、
材料や光などの造形の
要素に着目してそれら
の働きを捉える視点

木を見る視点



対象などの全体に着目
して造形的な特徴など
からイメージを捉える
視点

森を見る視点

4 表現と鑑賞の指導の関連を図る

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
- (2) 第2の各学年の内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については相互に関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにすること。

学習指導要領解説 P117

鑑賞の学習において、単に表現のための参考作品として、表面的に作品を見るのではなく、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸にそれぞれの資質・能力を高められるようにすることが大切。

4 表現と鑑賞の指導の関連を図る

指導計画の作成に当たっては、表現及び鑑賞のそれぞれの学習の**目標と内容を的確に把握**し、相互の関連を十分に図った学習が展開されるように配慮しなければならない。



各内容における**指導のねらい**を十分に検討し、それを実現することのできる適切な題材を設定し、系統的に育成する資質・能力が身に付くよう指導計画に位置付ける必要がある。

5 中学校美術科の指導における I C T の活用

- 表現及び鑑賞の活動を通して、感性や創造性を豊かにし、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育むことを目指す授業改善の手段として、I C T を積極的・効果的に活用していく。
- 実際に見る、聴く、触れるなどの身体感覚を働かせて学習する活動と I C T を活用する活動を、授業のどの場面で行うべきか、必要性を十分に検討する。**題材のねらいに応じて吟味し**、I C T 端末を効果的に用いて指導を行うことが重要である。

創造性を尊重する態度の形成と知的財産権や肖像権

- 自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の育成を図る。
- 指導の中で、必要に応じて著作権などの知的財産権や肖像権に触れ、作者の権利を尊重し、侵害しないことの大切さが分かるようにする。